

第

5

章

# キャリア教育の実践



## 中学校 国語科

## 1 国語科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

## (1) 国語科における目標とキャリア教育

学習指導要領では、国語科の目標において、言語活動を通して、目指す資質・能力を育成することを示している。また[思考力、判断力、表現力等]の各領域において資質・能力を育成する言語活動例を示している。[思考力、判断力、表現力等]の各領域で、創意工夫のある言語活動を位置付けた学習を行うことによって身に付く言葉に関する力は、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力を確かにする上でも欠かせない。

また、国語科における三つの目標のうち、(1)と(2)はいずれも、「社会生活」という言葉で始まっている点は、注目すべきことである。特に「(2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」は、キャリア発達に係るコミュニケーション能力に深く関連する。

## (2) 「考えの形成」の重視とキャリア教育

学習指導要領では、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けている。中学校におけるキャリア教育は、肯定的自己理解や自己有用感の獲得、興味・関心に基づく勤労観・職業観の醸成が大切な要素となるが、国語科の学習場面で、互いの発言を結び付けて(第1学年)、結論を導くために(第2学年)、合意形成に向けて(第3学年)考えをまとめたり、広げたり深めたりする学習を段階的に行うことが、「キャリア教育で目指す自己の考えの形成」を支える力の獲得につながっていく。

## 中学校学習指導要領(平成29年告示)《抜粋》

## 第2章 各教科 第1節 国語 第2 各学年の目標及び内容

## [第1学年] 2 内容

[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと

(1)オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

## [第2学年] 2 内容

[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと

(1)オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

## [第3学年] 2 内容

[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと

(1)オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

## 2 国語科の指導内容とキャリア教育の考え方—基礎的・汎用的能力を視点に—

下記の基礎的・汎用的能力を高めていくためには、言葉の力を確かにしていく必要がある。その核をなすのが、国語科であることは言うまでもない。意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、抽象的な概念を表す語句を適切に使ったり、心情や根拠を説得力のある表現を用いて伝えたりすることができるようになることが大事である。また、新設された情報の扱い方に関する指導では、論理的な思考力の育成につながるよう努めることが重要となる。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見い出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の文章の改善点を見いだし、学習課題に沿った意見を述べる文章を書こうとすることができる。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</li> </ul>

国語科で学習した内容は、「人間関係形成・社会形成能力」では、幅広いコミュニケーションスキルの向上に生かされるはずである。また、「自己理解・自己管理能力」では、文章から自分の考えを深めることが期待できる。さらに、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の視点からは、自己の将来を建設的に考えたり、有用な情報を選択して活用したりすることができるようになることが期待できる。

## 実践例（国語科） 単元名「互いの立場や考えを尊重しながら話しあう」【対象第2学年】

### 1（国語科）この単元のねらい

- 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い，結論を導くために考えをまとめることができる。

### 2 本実践とキャリア教育

本実践は，キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力のうち，「人間関係形成・社会形成能力」に深く関わる学習である。よりよい人間関係を築くためには，他者の考えや立場を理解した上で，相手の意見を正確に受け止め，自分の考えを，根拠の適切さに注意しながら伝えることが求められる。また，自己の役割を果たすことと，他者と協力・協働することを両立してこそ，目指す社会形成が実現し，未来を生きることに明るい展望が開けていくのである。このためには，他者との意思疎通が十分に図れるだけのコミュニケーションスキルを身に付ける必要がある。

本実践は，SDGsの目標の中から，「住み続けられるまちづくりを」を取り上げ，課題を発見し，取り組むべきことについて話し合うものである。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

#### ● 本実践までの学習活動

国語科	他教科や領域等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをプレゼンテーションする。</li> <li>・効果的な質問で相手の考えを引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人口分布と変化（社会）</li> <li>・私に関わるSDGs～持続可能な都市化～（総合的な学習の時間）</li> </ul>

#### ● 本実践の展開

- ・学習指導要領との関連：「A 話すこと・聞くこと」

(1)オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い，結論を導くために考えをまとめること。

第1時	人口の都市集中から起こる問題点を知り，情報収集する。
第2時	課題解決のために自分が取り組めることを考え，決定する。
第3時[本時]	グループで討論し，他者の考えを捉えるとともに，自分の伝え方を評価する。
第4時	グループとしての結論を発表し，討論について振り返る。

#### ● 本実践後の学習活動

国語科	他教科や領域等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決めて壁新聞を作る。</li> <li>・話し言葉と書き言葉の特徴について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー変換に関する技術(技術・家庭科)</li> <li>私に関わるSDGs～世界遺産の保護と保全～（総合的な学習の時間）</li> </ul>

#### 4 本実践（本時）の展開

「住み続けられるまちづくりを(SDGsゴール11)」について話し合おう。

本実践のねらい

- ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合えることができる。

[第3時/4時間扱い]

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1 討論の役割やルールを確認する。	○異なる立場から意見を出し合って、グループとしての結論を導くことに気付かせる。
	2 自分の主張と根拠を確認する。	○自分が作成したメモを活用させる。
展開	3 住み続けられるまちづくりのために、①自分が決定した課題 ②課題解決のための取組とその根拠を発表し、質疑応答、意見交換をしながら討論をする。	○一人一人の発表より、話し合いに長い時間を充てられるようにする。 ☆課題の大小、取組の実現性などから、具体的に実行可能な手段を話し合う。 ☆他者の発表のよい点に気づき、自分の発表に生かそうとする。
	4 課題と課題解決のための取組について、互いの考えの共通点や相違点、新たな提案を確認する。	◆互いの考えの共通点や相違点、新たな提案などを踏まえ、自分の考えをまとめている。
	5 話し合いの結論をまとめ、互いの立場や考えを尊重しながら話し合うことができたかを評価し合う。	◇互いの立場や考えを尊重し、協力・協働しようとしている。
終末	6 本時における自分の学習の進め方を振り返る。	☆向上心をもって、自分の学習の進め方をよりよいものに改善しようとする。
	7 次時のグループ発表の内容を確認する。	◇これからの目的と見通しをもって、取り組もうとしている。

#### 5 本実践のポイント

キャリア教育の視点から本実践の前半では、集めた情報を基に、設定した課題を自分の問題として認識し、解決のために取り組もうとすることを自己決定することがポイントとなる。グループの話し合いでは、最終的な合意によって、グループとして何が決まったのかを明確にすることが重要である。こうした経験が、特別活動の学級活動や委員会活動でも生かしていけることを、強く実感させたい。

## 中学校 社会科

### 1 社会科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。社会科では、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力や、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の課題や地域課題を解決しようとする態度など、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育てていくことが求められる。

#### 中学校学習指導要領(平成29年告示)《抜粋》

##### 第2章 各教科 第2節 社会 第1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

また、社会科における「社会的な見方・考え方」は、各分野の特質に応じて以下の通り示された。

#### 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編《抜粋》

##### 第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨及び要点 (1)改訂の趣旨 ①社会科の成果と課題

地理的分野では「社会的事象の地理的な見方・考え方」として、社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて」

歴史的分野では「社会的事象の歴史的な見方・考え方」として、「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして」

その上で、公民的分野では「現代社会の見方・考え方」として、「社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて」働かせるものとされ、小・中・高等学校の学校種を超えて社会科、地理歴史科、公民科を貫く「社会的な見方・考え方」の構成要素として整理した。

社会科において、「社会の一員として」貢献するという考え方は、キャリア教育と深く関わっている。社会的事象について考察する中で、知識や技能の習得につなげたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する中で、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育んだりすることが目指されている。また、社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しを持って他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で学習活動の充実を図ることが求められる。これらの学習活動を通して、合意形成や社会参画を視野に入れながら、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを身に付けていくことが期待されており、この点において、キャリア教育と深くかかわっているといえる。

## 2 社会科の指導内容とキャリア教育の考え方—基礎的・汎用的能力を視点に—

社会科の学習は、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の社会的な見方・考え方を働かせて、我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解したり、社会の形成者としての自覚を涵養したりすることが求められる。調査や諸資料を活用して社会的事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、論理的に説明したり、立場や根拠を示して議論したりするなど、社会的な見方・考え方を働かせて、社会的事象の課題の解決を図ろうとする学びが、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成につながる。

これらの学習は、単に理解しているか、できるだけでなく、それらを生かしどう使うか、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか、社会を形成するかといった自己と社会のつながりを考える基盤となるものである。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関わる指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界各地の人々の生活と環境について、各地の人々の生活の特色やその変容の理由を、主体的に追究することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の持続可能性に着目し、地理的な課題について考察、構想することができる。</li> <li>調査の適切な手順や方法を考察したり、調査の結果を適切な方法で表現したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳や統計、写真などを用いて情報を収集・活用し、地域の課題や将来像を考察しようとしている。</li> </ul>
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史に関わる諸事象について、国家や社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などに着目して、現代とのつながりを比較・関連して自己を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見から多面的・多角的に考察し、表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、文献、図版、資料、地図などを活用し各時代の特色を踏まえて理解し、将来を構想しようとしている。</li> </ul>
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の尊厳と人権の尊重の意義、自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、個人と社会との関わりを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人や企業の経済活動における役割と責任について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な社会を形成するために、解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述し、社会参画している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現することができる。</li> </ul>

なお、社会的事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、特定の事柄を強調し過ぎることのないように留意する必要がある。また、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想したりするに当たっては、関連する新聞、読み物、統計その他資料に平素から親しみ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすることが求められる。

## 実践例 社会科（公民的分野） 単元名「私たちと経済」【第3学年】

### 1 社会科（公民的分野）この単元のねらい

- 身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解する。
- 対立と合意，効率と公正などに着目して，個人や社会の役割と責任，社会生活における職業の意義について多面的・多角的に考察し，表現する。
- 市場の働きと経済について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

### 2 本実践とキャリア教育

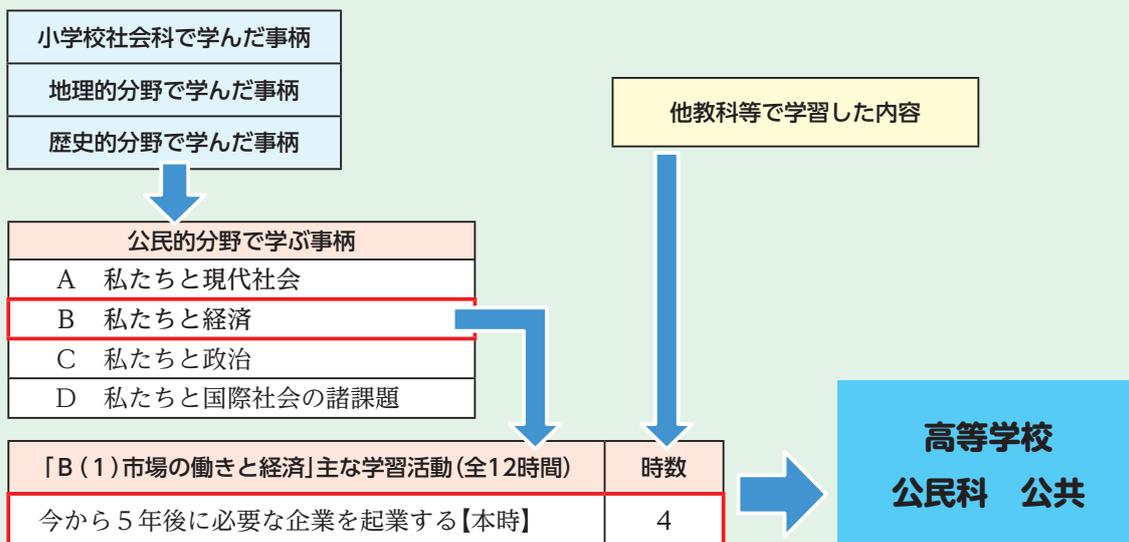
現代社会における経済活動について学習したことを，私たちの身近な地域や生活に引き付けて理解することは，持続可能な社会の担い手として重要である。

本実践は，大項目B「私たちと経済」の(1)「市場の働きと経済」を内容のまとめりとした単元のうち，以下の3に示す《単元構想》の「第5次」である。

現実の経済に対する関心を高め，身近な地域や社会生活における具体的な事例を取り上げて学習を展開し，持続可能な社会の担い手として経済に関する課題を解決しようとする態度を養っていくことは重要である。本実践のねらいは主として次の二つである。第一に，起業のための事業計画書を作成する活動を通して，身近な地域や社会生活における具体的な事例と関連させながら，経済活動や金融などの働きとの関連を理解することである。第二に，今後新たな発想や構想に基づいて財やサービスを創造し，企業を営んだり社会を支えたりすることへの関心を高め，個人や企業の経済活動における役割と責任を考察することである。これは，キャリア教育における「人間関係形成・社会形成能力」に関係する。

また，仕事と生活の調和という視点から考え，人生の各段階に応じて個人の個性を生かすとともに，生きがいや充実感をもって働くことにより，主権者として社会に貢献することを目指す。これは，キャリア教育における「キャリアプランニング能力」の育成が期待できる。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動）



## 4 本時の展開 (第9-12時 / 全12時間)

<本実践のねらい>

- ・ 起業のための事業計画書を作成する活動を通して、個人や企業の経済活動における役割と責任について理解する。
- ・ 社会生活における職業の意義と役割、雇用と労働条件の改善などについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 市場の働きと経済について、地域社会の現状を捉え、現代社会に見られる課題の解決を視野に自分にできることを考え、主体的に社会に関わろうとしている。

時数	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り (評価)
第9時	<p>1 身近な地域の現状や、生活における変化について、地理的・歴史的分野の学習から、課題を整理してまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な地域の課題、少子高齢化、情報化、グローバル化社会の中で、現在と将来の政治、経済、国際関係と今ある財やサービスについて話し合う。</li> <li>・ 現代的な課題を資料から読み取り、課題解決のために必要な方法を考える。</li> </ul>	<p>○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り (評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 他者の意見を認め、協力・協働することを伝える。</li> <li>☆ 集団の一員としての役割を確認する。</li> <li>◆ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</li> <li>◆ 身近な地域の学習から、少子高齢化社会や人口減少社会となっていることを理解できる。</li> <li>◇ 持続可能な社会の担い手として、労働力需給や経済成長に影響することを意識できる。</li> </ul>
第10時	<p style="text-align: center;"><b>全ての人びとが協力・協働して働ける社会の実現のために、 主権者として私たちは、どのようなことを考えたらよいだろうか。</b></p> <p>2 各グループで5年後に必要な企業を起業するための事業計画書を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な地域の課題を解決するために、企業理念を作る。</li> <li>・ 将来、必要となる財やサービスの内容を考える。</li> <li>・ 金融などの仕組みや資金調達を考える。</li> <li>・ 職業の意義と役割について、労働者側の視点で考える。</li> <li>・ 職業の意義と役割について、労働者側の視点で考える。</li> <li>・ 仕事と生活の調和について、企業側の視点で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 話し合い活動の中で、対立や合意を通し、自分の意見を正確に伝える。</li> <li>◆ 仕事と生活の調和の中で、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法を理解している。</li> <li>◇ 社会の一員としての自分の役割を意識している。</li> <li>◇ 職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、労働保護立法により、仕事と生活の調和を考察することができる。</li> <li>☆ 多様な生き方や働き方を考えるよう促す。</li> </ul>
第11時	<p>3 各グループの事業計画書について、互いに発表し合う。他のグループの発表を聞き、「発表評価シート」を記入して発表グループに渡す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部との連携を図り、地域の企業の方や、職場体験活動の実際の店舗の方を招き、発表についての意見をいただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 他者の発表の良い点を理解し、自分の考え方に取り入れる。</li> <li>○ 博物館や資料館、図書館などの公共施設やICT機器を活用し、様々な情報を収集・再構成する。</li> <li>○ 他者の意見を認め、協力・協働することを伝える。</li> <li>○ 発表には、地元企業や公共施設の関係者に参加してもらい、課題を解決するに当たって配慮しなければならない点を指摘してもらうよう準備する。地元企業からは、職業の意義や役割、企業の役割や責任などの観点から、助言をしてもらうよう、事前に打合せしておく。</li> </ul>
第12時	<p>4 各グループの事業計画書についての発表を聴いて、個人と社会の関わりを考える。また、自分の意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業の意義と役割、雇用と労働条件の改善により、個人や企業の経済活動における役割と責任について、個人と社会を結び付けて理解する。</li> <li>・ 財やサービスを創造することの必要性により、社会に必要な経済活動や企業などを支える金融などの働きについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 自らの思考を整理し、進んで学ぼうとする。</li> <li>◇ 社会的分業の一部を担うことにより、社会生活を支える意義について考察し、表現できる。</li> <li>◆ 個人と社会のつながりを考える。</li> </ul>

## 5 本実践のポイント

グループでの話し合い活動の中で、対立や合意を通して多面的・多角的に考察、表現できる力を身に付けることにより、現代社会の見方・考え方を働かせ、日常の社会生活や経済活動などを具体的なものとして捉えることができる。また、身近な地域で5年後に必要な企業を起業するための事業計画書を作成する活動の中で、職業の意義と役割、個人や企業の役割や責任、経済活動や金融との働きなど、単元を通して学習してきたことへの理解を深め、主体的に社会に関わろうとする態度につなげることが大切である。

## 中学校 数学科

### 1 数学科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

数学科では、中学校学習指導要領(平成29年告示)で、以下に示すように、資質・能力の育成において学習過程の果たす役割が重要視されている。

#### 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学科編 《抜粋》

##### 第1章 総説 2 数学科改訂の趣旨及び要点 (2)数学科の目標の改善

「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程」といった数学的に問題発見・解決する過程を学習過程に反映させることが重要である。(中略)そこで、今回の改訂では、主として日常生活や社会の事象に関わる過程と、数学の事象に関わる過程の二つの問題発見・解決の過程を重視した。

また、中央教育審議会答申(平成28年)において、「数学と人間との関わりや数学の社会的有用性についての認識が高まるよう、十分に配慮した内容としていくことが求められている」と示されている。単にでき上がった数学を知るだけでなく、日常生活や社会における事象を理想化・単純化・抽象化するなどして、数学の舞台に乗せ、数学の世界で処理して、結果を導き出す。その過程や得られた結果の意味を日常生活や社会において解釈し、判断することから問題を解決する。このようにして、日常生活や社会の事象が数学とどのように結び付いているのか考えることで生徒の学びをより深めることができる。自立的、協働的な活動を通して、数学を学ぶことを体験する機会を設け、その過程での経験から数学を学ぶ面白さ、考える楽しさを味わい、数学のよさを実感できるようにすることが大切である。さらに、資質・能力の育成に向け、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うことが求められる。

#### 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学科編 《抜粋》

##### 第2章 数学科の目標及び内容 第1節 数学科の目標 1 教科の目標

###### (2)目標について

数学が日常生活や社会生活において、また他教科の学習やその後の人生において必要不可欠なものであることに気付かせることが大切である。(中略)様々な事象の考察に際し、見方・考え方を自在に働かせられるようにすることが大切である。数量の性質を文字を用いて一般的に考察したり、図形の性質を直観的、論理的に考察したり、数量の関係を変化や対応を捉えて考察したり、不確定な事象の起こりやすさやデータの傾向を読み取って考察したりする際など、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して、生活や学習に果たす数学の役割に気付くことができるようにし、数学を積極的に活用しようとする態度を養うことが大切である。

学習したことをどのように生かすことができるのか考えたり、統合的・発展的に考えたりすることができるようにするために、数学の学習において数学的な見方・考え方を働かせる機会を意図的に設定することで、数学的な見方・考え方が豊かになり、日常生活や社会生活において、問題を論理的に解決す

る場面などで広く生かされていくと考えられる。

## 2 数学科の指導内容とキャリア教育の考え方—基礎的・汎用的能力を視点に—

中学校数学科の内容は、「A数と式」、「B図形」、「C関数」、「Dデータの活用」の4つの領域がある。キャリア教育における基礎的・汎用的能力の視点で各単元における学習内容を捉え直し、学習を進めることができる。

### 基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
一学年 【B図形（例：作図）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えの根拠を説明し伝え合う活動</li> <li>・他者と関わることで、1人では気付かなかった新しい視点を獲得することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○角の二等分線の作図方法について考える活動</li> <li>・簡単には解決できない課題に対しても自分が納得できるまで粘り強く考え、問題解決の過程を振り返ることで、次の学習へと学びをつなげようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○75度の作図方法を考える活動</li> <li>・課題を解決するためにどのような視点で問題を捉え、どのような作図方法を用いることで解決を図ることができるのかを思考していくなかで、物事の特徴や本質を捉えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食べかけのケーキのものの大きさを作図によって求める活動</li> <li>・日常生活の場面での問題を解決するためには、学習したことをどのように活用することができるか見通しをもって考えることで、根拠を明らかにしどのような考え方で物事を捉え解決していくか考えることができる。</li> </ul>
二学年 【C関数（例：一次関数）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○飲み物の温度変化を予測する活動</li> <li>・一次関数とみなした根拠を比較・検討し、他者と伝え合う活動を通して、よりよい予測のための手立てを工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形の面積の変化について考える活動</li> <li>・表、式、グラフを目的に応じて選択する際、何が一番適切であるか、的確に表現できるものはどれかという視点で粘り強く考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○フェリーから高速船の写真を撮る機会について考える活動</li> <li>・日常生活の事象を、関数関係を用いて解決するために、事象を理想化したりすることによって、解決することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○桜の開花日を予測する活動</li> <li>・何を明らかにするのかという目的意識をもち、日常の事象において関数関係として捉えられるものを取り出し、考察することができる。</li> </ul>
三学年 【A数と式（例：多項式）】	○計算のしくみを考え、説明する活動			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いた式で数量の関係を捉え説明する活動を通して、その理由を簡潔・明瞭・的確に表現し、相手にわかりやすく伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明したい事柄に合わせて式を正しく変形するためには、既習の内容の何を活用するのかを明確にすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いてその関係を説明するためには、どのような過程で説明することが望ましいか、方針を明確にし、論理的に説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いて数量の関係を捉えることと併せて、式の意味を読み取ることで、2学年の学習との関わりを捉え、統合的・発展的な考え方につなげることができる。</li> </ul>

数学的活動の中でも、「説明し伝え合う活動」を効果的に取り入れることにより、「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながると考えられる。説明し伝え合う活動を通して、新しい視点を獲得ことや考えの質を高めるといった経験は、これから生きていく上で必要なコミュニケーション能力の育成という視点で大変、重要になっていく。また、「課題対応能力」や「自己理解・自己管理能力」と関連付けながらそれらの能力の育成を考えていくことで、基礎的・汎用的能力の育成を目指すことができると考えられる。

各学年で扱う教材において、キャリア教育の視点を入れることで、数学がどのように日常生活や社会生活の中で生かされるか、実感を伴いながら学ぶことができる。数学のよさを実感させるためにも、キャリア教育の視点を基に教材を見直すことは有効であると考えられる。

## 実践例（数学科） 単元名「データの分析と活用」【第1学年】

### 1（数学科）この単元のねらい

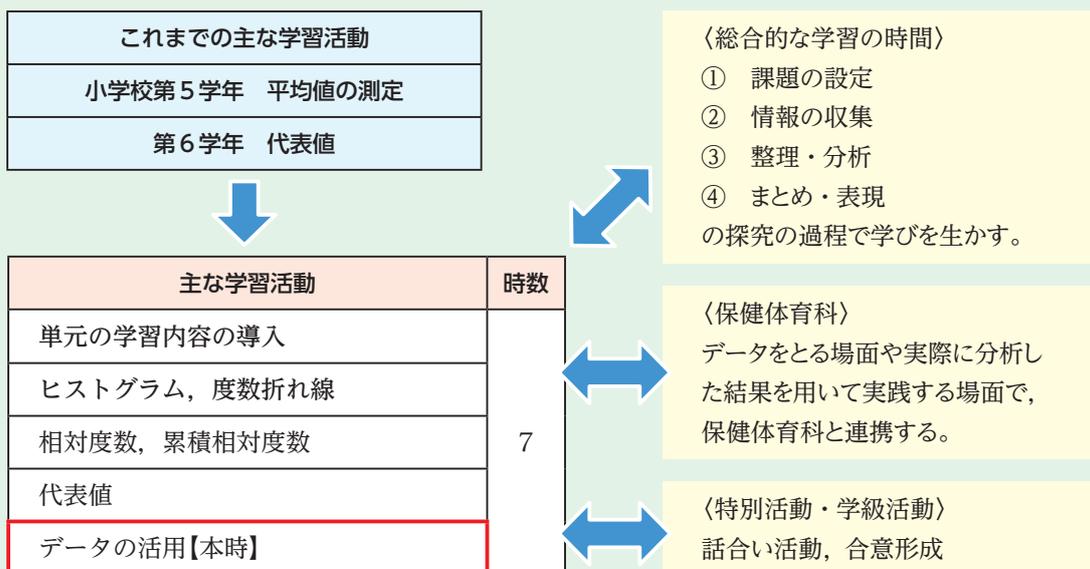
- ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解することができる。また、コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。
- 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。
- ヒストグラムや相対度数などのよさに気付いて粘り強く考え、データの分布について学んだことを日常生活や学習に生かそうとしている。

### 2 本実践とキャリア教育

急速に発展する情報化社会において、多くの人が、様々なデータを手にすることができるようになってきており、データを用いて問題解決する場面も増えてきていると考えられる。データを用いて問題解決のために必要とされる基本的方法を理解することや、その方法を用いてデータを整理し、それを基にしてデータの傾向を捉え説明することを通して問題解決する力を養うことができるようにする必要がある。

この単元では、数学的な見方・考え方を働かせ、日常生活や社会において、データに基づいて判断しなければならない場面で適切な判断をするために、目的に応じて統計的な表現や処理を行い、それをもとにしてデータの傾向を読み取り、それを説明し互いに伝え合う活動を位置付ける。日常生活の場面での問題を解決するためには、学習したことをどのように活用することができるか見通しをもって考える活動を通して、「キャリアプランニング能力」の育成を図ることができると考える。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



#### 4 本実践（本時）の展開（第7時 / 全7時間）

<本時のねらい>

- ・聞き手が理解しやすいように、データの分布の様子に着目し根拠を明らかにして説明することができる。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1 問題把握 学級対抗の大縄跳び大会を行う。優勝を目指すために学級で決めるべきことは何か把握する。 2 問題解決の見通し 解決するためにはどのように考えていく必要があるか視点を挙げる。	☆ 実際に学級対抗の大縄跳び大会をするという想定で考えさせていく。 ☆ 優勝するための作戦として考えられる視点を自由に発想できるよう促す。
展開	3 本時の課題を焦点化する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">2列と3列のどちらの並び方で跳ぶのがよいのだろうか</div> 4 データを整理・分析する データを整理・分析し、それぞれの並び方の特徴を捉える。 5 結論を説明する 根拠を明らかにしてどちらの並び方がよいか説明し合う。	○ 多様な視点から「並び方」に着目させ、課題を焦点化する。 ○ データは教師側で準備をする場合や前時に自分たちで実際のデータをとる場合などが考えられる。 ○ データを整理・分析することで自分の考えの根拠となる事柄を明確にすることができるようにする。 ◆ 聞き手が理解しやすいように、データの分布の様子に着目し根拠を明らかにして説明することができる。 ☆ 相手の考えを理解しようとしながら聞くことができる。
終末	6 振り返り 自分の考えと他者の考えを比較したり、他の見方ができないかを考えたりする。	◇ 学習を通して日常生活とデータを活用することのつながりが実感できるようにする。

#### 5 本実践のポイント

実際に学級対抗で活動することをイメージしてデータを整理・分析し、考察する。学級として跳び方を結論付けることが必要になるという視点をもつことで、根拠をもって説明する活動につながる。また、自分の考えだけを主張するのではなく、相手の考えを聞く力を育むことができる。分析・考察したことをもとに、どちらの跳び方にするか話し合い活動を行うことで、合意形成を図る場面を位置付けることも可能と考える。実践することをイメージし、データを整理・分析・考察する過程を通して、見通しをもって計画的に活動を行うことの有用性が感じられる学習活動にすることができると思う。

## 中学校 理科

### 1 理科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2019)において、「理科を勉強すると、日常生活に役立つ」「理科を使うことが含まれる職業につきたい」と回答した日本の生徒の割合は、前回の調査より増加している様子が見られるが、依然、国際平均より下回っていることが明らかになった。そのため、生徒自身が自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習を充実させていくことが重要である。さらに、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めることで、日常生活や社会の中で生じる様々な課題に対応する力を育成していく必要がある。これらは、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成と深い関わりがある。

**中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編 《抜粋》**

第1章 総説 3 理科改訂の要点  
 (1) 改訂に当たっての基本的な考え方  
 理科で育成を目指す資質・能力を育成する観点から、自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習を充実した。また、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視した。

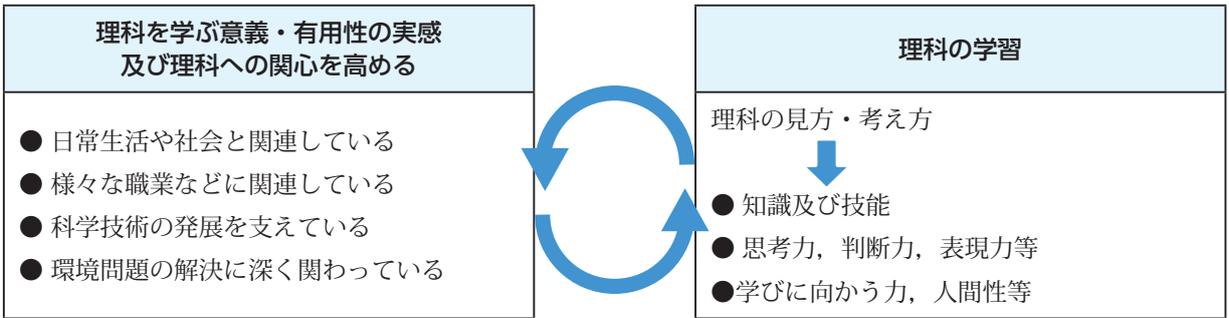
**日常生活や社会**

- Society5.0 時代の到来が、社会や生活を大きく変えていく状況が生じつつある。
- 情報化やグローバル化が進展する社会においては、多様な事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しくなっている。

**生徒一人一人の社会的・職業的自立**



**自然の事物・現象を科学的に探究するための資質・能力の育成**



## 2 理科の指導内容とキャリア教育の考え方 ―基礎的・汎用的能力を視点に―

理科は、自然の事物・現象を学習の対象とする教科である。自然の事物・現象に関わることは、生徒が主体的に問題を見いだすために不可欠であり、学習意欲を喚起する点からも大切なことである。また、理科で学ぶ内容は日常生活や社会と深く関連しており、理科の学習を通して育成する資質・能力は、変化の激しい社会の中で生涯にわたって主体的、創造的に生きていくために大切である。理科の指導を進めるに当たっては学習指導要領を踏まえつつ、生徒一人一人が社会的・職業的に自立するために必要となる能力である基礎的・汎用的能力の育成を視点として指導の改善・充実を図り、系統的・計画的に学習を進めることが大切である。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
理科全般	・他者と協力・協働して、観察・実験を行うおとしている。	・持続可能な社会をつかっていくため、自分が「できること」について考え、主体的に学ぼうとしている。	・課題に対して、探究の過程を通じて課題を解決したり、新たな課題を発見したりできる。	・自然と人間が調和した持続可能な社会をつかっていくために、科学的な根拠に基づいて意思決定ができる。
第1分野	・実験結果の記録からレポートの作成や発表により、多様な考えを理解している。	・物質やエネルギーに関する事物・現象について、進んで関わり、科学的に探究しようとしている。	・科学的に探究する活動を通して、規則性を見いだしたり課題を解決したりできる。	・限られた資源の中で自然環境との調和を図りながら、持続可能な社会を築いていこうとしている。
第2分野	・分類の観点や基準について、話し合いや発表により、多様な考えを理解している。	・生命や地球に関する自然の事物・現象に進んで関わり、自然を科学的に探究する活動を行い、科学的に探究しようとしている。	・科学的に探究する活動を通して、多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり課題を解決したりできる。	・自然と人間との関わりを認識するとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与した生き方をしていこうとしている。

理科の学習では、課題の把握(発見)、課題の探究(追究)、課題の解決という探究の過程を通じた学習活動を行い、それぞれの過程において、資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが必要である。新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す現代社会では、新しい知識や情報の真偽を科学的に判断することや、筋道を立てて理解することが必要な事態がしばしば起こる。生涯にわたって、主体的、創造的に生きていく上で、探究する力や態度を身に付けることは、「自己理解・自己管理能力」や「課題対応能力」の育成に大きく関わってくる。

人間が自然と調和しながら持続可能な社会をつかっていく意識をもち、安全で健康な生活を過ごすためにも、理科を学ぶ意義は大きく、一人一人のキャリア発達を考える際、理科で学ぶ内容は非常に大切である。

## 実践例（理科〈第2分野〉） 単元名「動物の体のつくりと働き」【第2学年】

### 1（理科〈第2分野〉）この単元のねらい

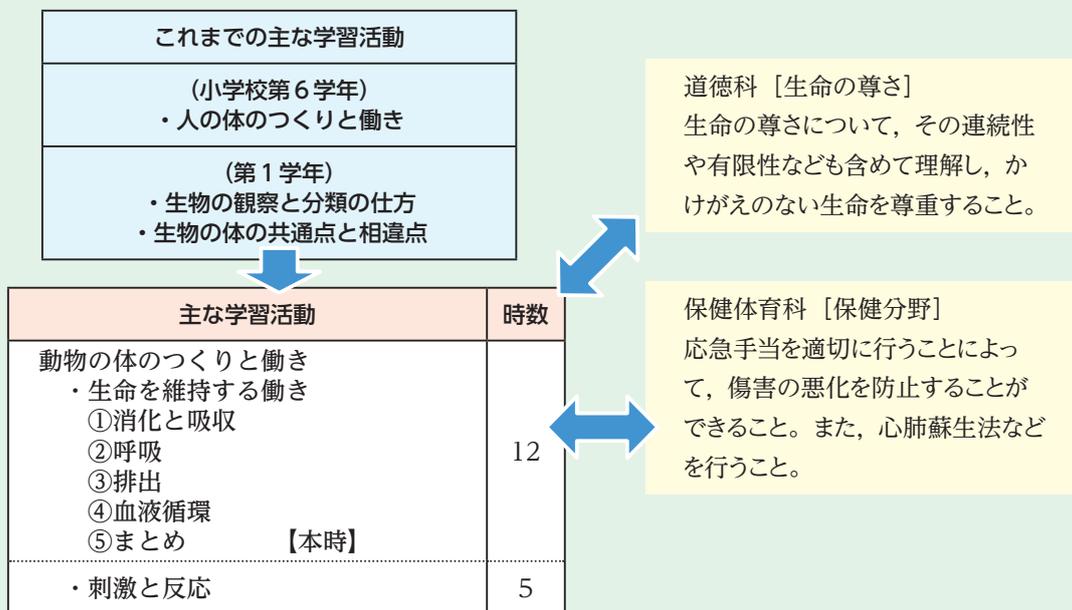
- 動物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生命を維持する働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けること。
- 動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現すること。
- 動物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。

### 2 本実践とキャリア教育

生命や自然環境を扱う第2分野の学習においては、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育成することが重要である。

そこで、小学校での学びを生かしながら、生物や生命現象についての観察、実験などを通して、生物のつくりと働きの精妙さを認識させ、かけがえのない生命の尊さを感じさせるようにする。さらに、学習の前後で自己の変容を自覚する場面を設定することで、自らの学びが深まっていることに気付くようにし、基礎的・汎用的能力の「自己理解・自己管理能力」の育成につなげる。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

本単元を通じたキャリア教育をさらに充実させるために、第3学年の「生物の種類の多様性と進化」での学習につなげる指導を行う。また、保健体育科「応急手当・心肺蘇生法」の学習との関連をもたせて取り扱うこと等が考えられる。既習事項を活用したり内容を発展させたりするだけでなく、各教科が連携して、日常生活や社会との関わりの中で学ぶ意義を実感できるようにすることで、一人一人のキャリア発達を促す。

#### 4 本実践（本時）の展開（第12時/17時間）

《本時のねらい》

- ・これまでの学習を振り返り、話し合いを通して、生命を維持する働きについて理解する。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1 これまでの学習を簡単に振り返る。	○ グループごとに、学習してきたことを出し合う。
	2 課題を確認する。	○ 生徒の家庭環境等に十分配慮する。 ○ 単元の始め（第1時）に同じ発問をして、小学校で学んだことをもとに自分の考えを記入している。
展開	<b>課題：生命を維持するために、心肺蘇生法を行うのはなぜだろうか。 今まで学習したことを生かして詳しく表現しよう。</b>	
	3 消化、呼吸、血液循環、排出に関わる器官について、個人で学習を通して理解したことを言葉でつなげる（イメージマップ）。	○ 単元の始め（第1時）に用いたワークシート（イメージマップを含む）を配布し、生徒個人が新たに学習を通して理解したことをイメージマップで言葉をつなげる（ワークシートに代えて、1人1台端末の活用も考えられる）。 ☆ 話し合いにより、多様な考えを理解し合うように促す。（参考になったところは、自分のイメージマップに付け加えよう。等）
終末	4 自分で記入した内容をもとに、グループで話し合いを行い、考えを共有する。	
	5 本時のまとめを行う。 作成したイメージマップを参考に、課題に対する自分なりの考えを記述する。	◆ 生命を維持する働きについて理解している。 ○ 生命を維持する働きには、消化系や呼吸系、循環系などが密接に関わっていることに気付くように促す。
	6 本時を振り返る。 学習前後のワークシートを比較し、自分の学習を振り返る。	◇ 単元の学習の事前と事後に記入した、イメージマップを比較することで、自分の成長や変容を自覚し、表現している。

#### 5 本実践のポイント

実際に「生命を維持する働き」に関係する職業に従事している人（消防士や医師、看護師等）の話の聞いたり、質問したりする学習を行うことも考えられる。日常生活や社会との関わりの中で生命を維持する働きについて学ぶ意義を実感するとともに、職業や今後の学習と関連付けて、さらに学んでいこうとする意欲を高められることが期待される。

# 中学校 保健体育科

### 1 保健体育科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

中学校学習指導要領(平成29年告示)における保健体育科の目標は、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成すること」である。「生涯にわたって」という言葉が使われていることわかるように、保健体育科で目指すのは、子供たちが現在だけではなく、将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにするための資質・能力を身に付けることである。まさにこれは、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成を目指すキャリア教育と志を一にするものである。

体育分野の各内容を通して身に付ける体力や、保健分野の各内容を通して習得する健康や安全に関する知識は、一人一人のキャリア形成の基盤として極めて重要であるということはいままでもない。それに加え、「運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力」や、「生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度」も含め、まさに保健体育科で育成を目指す力の全てがキャリア教育と深い関連があるといえる。だからといって、「保健体育科では、何をやってもキャリア教育」と安易に考えてはいけない。中央教育審議会答申(平成28年)では、これまでの保健体育科の課題として、習得した知識や技能を活用して課題解決する力の育成が不十分と指摘している。これまでは、保健体育科の授業で学習したことが実際の社会でどのように活用できるのか、自分の将来にどのように活かされていくのか、ということ子供たちが実感しにくかった部分もあったのではないだろうか。生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を実現するためにも、「学んでいることが社会や自分の将来とどのようにつながるのか」というキャリア教育の視点を取り入れた保健体育科の授業を今一度熟考する必要がある。

### 2 保健体育科の指導内容とキャリア教育の考え方 —基礎的・汎用的能力を視点に—

では、どうすれば保健体育科で学習したことを、社会や自分の将来とつなげることができるのだろうか。その際にポイントとなるのが、キャリア教育で育成を目指す基礎的・汎用的能力である。基礎的・汎用的能力については第1章で詳しく述べているとおり、子供たちが将来、社会的に自立し、職業人としての役割等、様々な役割を果たしながら、それらを積み重ねていくために必要な資質・能力である。したがって、保健体育科で身に付ける資質・能力が、基礎的・汎用的能力のどの能力にあたるのかを意識することで、教師も子供も、保健体育科の学習がどのように社会や自分の将来とつなげるのかを実感できるはずである。

右記の表は、基礎的・汎用的能力の育成に特に関連する保健体育科の指導内容の例であるが、ここに示したものはあくまでも例であり、保健体育科の指導内容の全ては基礎的・汎用的能力の育成につながる。また、例えば下記の表では球技(ゴール型)は「人間関係形成・社会形成能力」の育成と関連させているが、チームの作戦・戦術についての課題を発見し、課題解決に有効な練習方法を選択できるようにすることを目的とした場合は「課題対応能力」の育成と関連させることができる。大切なのは、教師がその単元、その授業において、子供たちにどのような力を身に付けさせ、その力が社会や子供たちの将来と

どのようにつながるのかを明確にイメージし、子供たちがそれらを実感できるようにすることである。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
体育分野	<p>【球技（ゴール型）を例に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引き付けてゴールから離れるなど、味方やチームのことを考えたプレーが身に付いている。</li> <li>作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見つけ、仲間に伝えることができる。</li> <li>作戦などについての話合いに貢献しようとしている。</li> </ul>	<p>【陸上競技（短距離・リレー）を例に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>後半でスピードが著しく低下しないよう、力みのないリズムミカルな動きで走ることが身に付いている。</li> <li>ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返ることができる。</li> <li>勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</li> </ul>	<p>【器械運動（マット運動）を例に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の動きや仲間の動き方を自己観察と他者観察を用いて分析することが身に付いている。</li> <li>選択した技の行い方や技の組み合わせ方について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や、それぞれの挑戦を大切にしようとしている。</li> </ul>	<p>【体づくり運動（実生活に生かす運動の計画）を例に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て、取り組むことが身に付いている。</li> <li>体づくり運動の学習成果を踏まえて、実生活で継続しやすい運動例や運動の組合せの例を見つけることができる。</li> <li>自らの生活を見直し、改善を図ろうとする意志が大切であることなどを理解し、取り組もうとしている。</li> </ul>
保健分野	<p>【心身の機能の発達と心の健康（生殖に関わる機能の成熟）を例に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生殖機能の発育・発達に伴い、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりを理解している。</li> <li>習得した知識を活用し、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択ができる。</li> <li>異性を尊重しようとしたり、性情報に対して適切な態度や行動を選択しようとしている。</li> </ul>	<p>【傷害の防止（交通事故などによる傷害の防止）を例に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因に関わる危険を予測し、適切な対策を行うことが必要であることを理解している。</li> <li>習得した知識を活用し、傷害の要因となる自分の心身の状態や周囲の状況を把握し、危険を予測し、回避する方法を選択することができる。</li> <li>自分を律し、危険な運転や行動を控え、交通事故を防ぎ、傷害を防止しようとしている。</li> </ul>	<p>【健康と環境（身体の環境に対する適応能力・至適範囲）を例に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身体には、環境の変化に適応する能力があること、その能力には限界があり、その限界を超えると健康に重大な影響が見られることを理解している。</li> <li>習得した知識を活用し、気象情報をもとに熱中症などのリスクを軽減する方法を見いだすことができる。</li> <li>熱中症などのリスクに対して、適切な情報を集め、対応しようとしている。</li> </ul>	<p>【健康な生活と疾病の予防（生活習慣病などの予防）を例に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病を予防するには、適度な運動や適切な食事、休養及び睡眠などの生活習慣を身に付けることが有効であることを理解している。</li> <li>習得した知識を自他の生活と比較したり、活用したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し、健康の保持増進を図る方法を選択することができる。</li> <li>現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにするために、適切な生活習慣を身に付けようとしている。</li> </ul>

## 実践例（保健体育科）単元名「器械運動・マット運動」【第2学年】

### 1（保健体育科）この単元のねらい

- 技には、課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることを理解している。
- 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選ぶことができる。
- 一人一人の違いに応じた課題や、それぞれの挑戦を認めようとしている。

### 2 本実践とキャリア教育

器械運動は、技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。そして、技における自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができるようにすることが大切である。

そのような授業で身に付ける力は、将来仕事をする上でも様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を解決する力につながっており、そのような力が基礎的・汎用的能力においては「課題対応能力」にあたる。

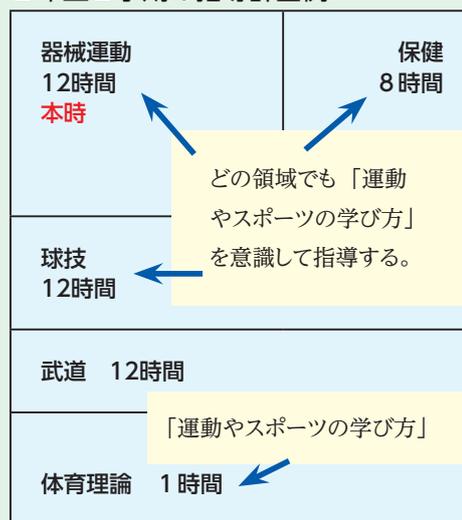
また、タブレットPC等で自分の演技を録画し、分析に生かすなど、ICTを活用して課題を解決していく力を育成する上でも重要な単元だといえる。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

保健体育科を通して基礎的・汎用的能力を育成するには、各単元・領域を関連付けながら学ぶことが有効だと考えられる。そこで、ここでは体育理論を要として、各領域を関連付けて学ぶことを提案する。

体育理論の内容を意識して日々の実践を行い、各学期末に体育理論の授業をすることで、自分の体験に基づいた学びとなる。例えばある学校で第2学年の2学期に取り扱う内容が「器械運動」、「球技」、「武道」の場合、教師は学期初めに2学期の重点が「運動やスポーツの学び方」であることを生徒に伝える。その上で、どの領域でも「各種の運動の技能を効果的に獲得するためには合理的な練習の目標や計画を立てることなど、運動の課題を合理的に解決する学び方があること」を指導する。そして、2学期末の体育理論の授業で「運動やスポーツの学び方」について学ぶ。このように、複数領域を横断した取組で基礎的・汎用的能力を育成する。（この例でいえば、この期間は複数単元で「課題対応能力」の育成を図る。）

2年生2学期の指導計画例



#### 4 本実践（本時）の展開

《本時のねらい》

○自己の課題を解決するため、課題に適した練習方法を選んで取り組むことができる。

(7/12時間)

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1 準備、準備運動 2 本時のねらいを確認 (前時と本時で挑戦する技……倒立)	○整列、号令に続いて、準備、準備運動をする。 ☆前時に撮影した自分の映像を見て、自分の課題を把握する。
展開	3 練習方法の選択 各練習方法の意図の説明 ①カエル逆立ち ②カエルの足うち ③三点倒立 ④壁のぼり倒立 ⑤補助付倒立 ⑥壁倒立	○班で考えさせることで、自分の課題を見つけにくかったり、自分の課題に適した練習方法を見つけにくかったりする生徒を支援する。
	自分の課題を解決するために、課題に適した練習方法を選んで取り組もう	
終末	4 倒立の練習 同じ練習を選んだ者同士で、補助したりアドバイスをし合ったりする	☆◆◇自己の課題に適した練習方法を選ぶことができたか。(観察・学習カード) ○練習を見て回りながら、この練習で何を改善しようとしているのか問いかける。
	5 倒立の相互評価 班に戻り、一人ずつ演技し、班員から評価をもらう	○演技する生徒は、課題としていたところが練習を通してどう改善したのか発表する。
	6 本時の授業と振り返り	◆◇技の出来栄だけでなく、自分の課題を解決するために、適した練習方法を選べたかどうかを振り返ることができるように支援する。

#### 5 本実践のポイント

この器械運動の他に、「課題対応能力」の育成につながる授業を球技及び武道でも実践する。その上で、学期末の体育理論の授業で、各領域での学び方について、共通点や異なった点を考えるとともに、学んだ「運動やスポーツの学び方」を、保健体育科の他領域の学習や、部活動など保健体育科以外の活動及び自分の将来にどのように生かしていくことができるか考える。基礎的・汎用的能力を視点として、授業、単元、領域、体育理論、それぞれをつなぎ合わせることで、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」が育成されると考える。

# 中学校 技術・家庭科

### 1 技術・家庭科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

技術・家庭科では、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築の礎となる生活を工夫し創造する資質・能力の育成を目指している。実践的・体験的な活動を通して生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせ、生活や社会の中から問題を見いだし解決する力を養うことで、現在及び将来にわたる実際の生活の場で、学習したことが生きて働く力となることをねらいとしており、キャリア教育によって育成する基礎的・汎用的能力と重なる部分が多いといえる。

#### 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編《抜粋》

##### 第2章 技術・家庭科の目標及び内容 第1節 技術・家庭科の目標

(前略)変化の激しい社会に主体的に対応するためには、生活する上で直面する様々な問題の解決に向けて、知識及び技能を活用して解決方法を考えたり、自分なりの新しい方法を創造したりするなど、学んだことを実際の生活の中で生かすことができる力を育てることが重要であり、このような力は、生活や社会の中でどのような問題に直面しようとも自分なりの判断をして解決することができる力、すなわち問題解決能力にもつながるものである。

(中略)さらに、自分や家族の生活の仕方や消費行動、技術の評価、適切な選択と管理・運用、新たな発想に基づく改良と応用などが、これからの社会を方向付けていくことを踏まえ、主体的に意思決定したり行動したりして社会に参画しようとする態度を育成することも重要である。

生徒が学習内容に学びの価値を見いだし、主体的・対話的に学ぶことが、教科のねらいを達成するだけでなく、教科を通じたキャリア発達につながる。そのために次のような働きかけを計画的・長期的に取り入れることが重要である。

- 実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように活動を組み立てること。
- 家庭や地域社会との連携を重視し、学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して適切な題材を設定すること。
- 自ら問題を見い出して課題を設定し解決を図る問題解決的な学習を一層充実させること。
- 仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせるなど、充実感や達成感を実感できるようにすること。
- 他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりできるようにすること。

技術・家庭科において、仕事が楽しいと感じること、自分が作品を完成させることができた、課題を解決できたという達成感を味わうことは、知識及び技能を習得できたという喜びと習得した知識及び技能の意義を実感する機会でもある。また、失敗や困難を乗り越え、やり遂げたという成徳感、自信になる。さらに、学びの中で協働したり、考えたり、気付いたりすることが、キャリア発達を促すことにつながる。

## 2 技術・家庭科の指導内容とキャリア教育の考え方—基礎的・汎用的能力を視点に一

技術・家庭科の目指す、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するとともに、生徒一人一人に社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すことが重要である。そのために、授業内容とキャリア教育との関連を意識して指導することが大切である。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関わる指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
両分野	○ 他者からの意見などを踏まえて、計画を評価・改善することができる。	○ 自分の経験や既存の知識と結び付けながら学習し、変化する状況に応じて主体的に活用することができる。	○ 実践を振り返り、考察し、改善策を検討するなど実践活動を評価・改善することができる。	○ 一連の学習過程を通して身に付けた力を生かし、実践しようとしている。
技術分野	○ 情報モラルの必要性について理解している。 ○ 技術と社会や環境は相互に影響することを理解し、技術の影響を考慮した上で技術を工夫し創造していこうとしている。	○ 自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想する。 ○ 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする。	○ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題を設定して解決策を構想し、製作図や回路図、計画表などに表現して試行錯誤しながら具体化し、実践を評価・改善することができる。	○ 技術に関わる倫理観をもって新しい発想を生み出そうとしている。 ○ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や新たな発想に基づく改良と応用について考えている。
家庭分野	○ 家族と協力し、地域に住む様々な世代の人々とともに力を合わせて、主体的に物事に取り組もうとしている。	○ 家庭生活や地域を支える一員として、生活をよりよくしようと積極的に取り組もうとしている。	○ 生活の中から問題を見だして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践しようとしている。	○ 自分の生活の仕方や消費行動がこれからの社会を方向付けていくことを踏まえ、主体的に意思決定したり、行動したりしようとしている。

授業づくりのポイントとして、次のようなものが考えられる。

- 技術分野の学習を通して、知的財産を創造、保護及び活用していこうとする態度の育成に努めるとともに、我が国に根付いているものづくりの文化や伝統的な技術の継承、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、働くことの意義の理解、他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとする態度、安全な生活や社会づくりに貢献しようとする態度を育む。
- 家庭分野の学習を通して、人とよりよく関わろうとする態度や家族や地域の人々と協力・協働しようとする態度、製作などに粘り強く継続して取り組もうとする態度などを育み、学びに向かう意欲を高める。
- 社会や産業で利用されている技術の仕組みを調べたり、社会の発展に技術が果たしてきた役割を考えたりする活動や、学習内容に係る職業に携わる人材を活用し、話を聞くなどの活動を通して、勤労観や職業観を育成する。

## 実践例（技術・家庭科（家庭分野）） 題材名「快適で持続可能な衣生活」【第2学年】

### 1（技術・家庭科（家庭分野））この題材のねらい

- 衣服と社会生活との関わりがわかり、目的に応じた着用、衣服の適切な選択、日常着の手入れについて理解するとともに、それに係る技能を身に付ける。
- 衣生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
- よりよい生活の実現に向けて、衣生活について主体的に生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

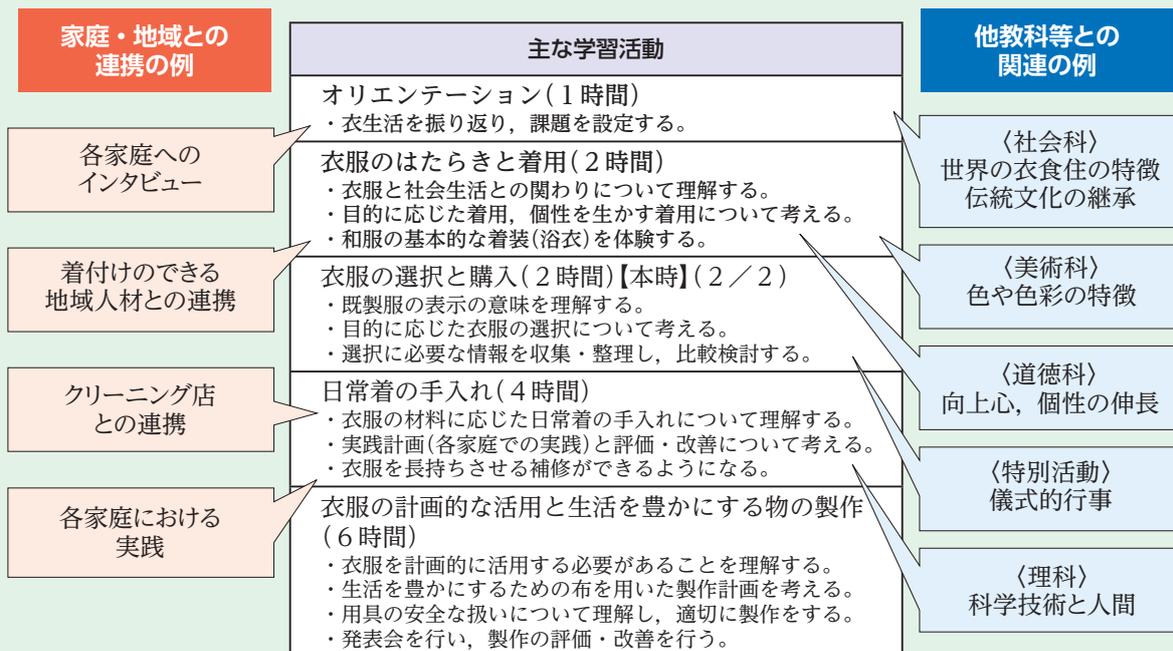
### 2 本実践とキャリア教育

よりよい生活は自ら様々な問題に気づき、解決することで実現が可能になる。そのためには、生活の中で見いだした問題について、その問題解決に向けて、学んだ知識を活用し、主体的に判断する力を育成することが必要である。

本実践では標準服(制服)の下に着用するTシャツを選択するという条件の下で、自分の状況に最適なTシャツを選択する学習を通して「課題対応能力」の育成をねらう。生徒は既習内容や生活経験を生かして情報を収集し、比較・検討し、自分の状況で求める最適なTシャツを主体的に選択する。活動の中で友達と意見交流をする場面を設定することで、他者の視点から考えを深めながら、自分にとってよりよい選択ができるようにしたい。また、生徒の実態によっては、「キャリアプランニング能力」の育成も期待できる。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）

#### 全体構想 「快適で持続可能な衣生活」(全15時間)



#### 4 本時の展開

《本時のねらい》

様々な情報から目的に応じて情報収集・整理を行い、標準服(制服)の下に着用するのに適したTシャツを選択することができる。

(5 / 15時間)

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り(評価) ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り(評価)
導入	1 本時の流れと課題を確認する。 <b>標準服(制服)の下に着るTシャツを 買うならどれにする?</b>	○実物のTシャツ(値札やタグ付き)を数種類準備し、体験的に学ぶことができるようにする。
展開	2 既習事項を生かしながらTシャツを直接見ながら情報を収集し、どのTシャツが最適かを考える。  3 それぞれの選んだTシャツとその根拠を話し合う。 ・肌が弱いので綿を選択した。 ・速乾という性能で選択した。 ・価格が安いので選択した。  4 友達の意見を踏まえて再検討し、最適なTシャツを決定する。	○素材・サイズ・価格・手入れの方法など様々な情報が記載されていることを確認する。 ☆自分がどのようなTシャツを求めるのかを明確にする。 ☆目的に応じた情報収集・整理を行う。  ○自分の選んだTシャツと選んだ理由を情報交換できる場を設定する。 ☆友達との意見交流を通して互いの考えから比較・検討する。  ○再検討する際には再度Tシャツの情報を確認するなどし、主体的に判断することができるようにする。 ◆◇目的に応じて情報を収集したり、整理したりして、標準服(制服)の下に着用するのに適したTシャツを主体的に選択している。
終末	5 本時の活動を振り返る。	○本時の学びを振り返り、今後の生活にどのように生かしたいか考える。

#### 5 本実践のポイント

- 課題を明確にして比較・検討し、主体的に判断する経験を重ねることがキャリア発達につながる。生徒が安心して主体的に課題解決に向かうことができるよう、数種類のTシャツはそれぞれによさがあるものを準備したり、友達と意見交流する場を適切に設定したりすることが大切である。

# 中学校 総合的な学習の時間

### 1 総合的な学習の時間を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成」することを目指している総合的な学習の時間は、キャリア教育と深い関わりをもっている。この点について、目標の趣旨に関する解説で次のように整理されている。

#### 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 《抜粋》

#### 第2章 総合的な学習の時間の目標 第2節 目標の趣旨

##### 1 総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方

自己の生き方を考えていくことは、次の三つで考えることができる。一つは、人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。社会や自然の一員として、何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。二つは、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことである。取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、また、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。そして、これら二つを生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることが三つ目である。学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気づき、自分の人生や将来、職業について考えていくことである。

このように、総合的な学習の時間においては、学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気づき、自分の人生や将来、職業について考えていくことが大切である。また「自己の生き方を考える」ことがキャリア教育のねらいでもあり、「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成」にもつながっていくものと考えられる。また、中学校学習指導要領では、総合的な学習の時間の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れることとしており、職業や自己の将来に関する学習を行う際には、探究的な学習に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動を行うことが示されている。探究課題の解決に取り組み、その結果として生徒一人一人が自己の生き方を真剣に考える学習活動が展開されることが求められる。そして、問題の解決や探究活動が連続していくことで、学ぶ意味や自分の将来、人生についての考えを深めることにつながっていくことになる。

進路の選択を迫られる場面を迎える義務教育修了段階である中学校において、働くことや職業を自分との関わりで考え、自己の将来を展望しようとすることは、自己の生き方を考えることに直接つながる重要な学習となるとともに、社会人・職業人として自立できる人間を育てるキャリア教育の充実につながるものである。

## 2 総合的な学習の時間の指導内容とキャリア教育の考え方 ―基礎的・汎用的能力を視点に―

総合的な学習の時間の内容は、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を各学校が定めることとされている。

目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題など、横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしく、それらの解決を通して育成される資質・能力が、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような、教育的な価値のある諸課題であることが求められる。

これら探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力は、「社会人・職業人として自立できる人間を育てる」ことを目標としているキャリア教育において、身に付けさせたい基盤となる能力である基礎的・汎用的能力の4つの具体的な能力と関連するものであると言える。そこで、キャリア教育とも関わりが深いと考えられる探究課題「職業や自己の将来に関する課題」を例にして、基礎的・汎用的能力の4つの具体的な能力の視点から整理すると、以下のようになる。

基礎的・汎用的能力の育成と学習内容との関連の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
	○職業の選択と社会への貢献			
職業や自己の将来に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業調べや職場選りなど自分の意志で決定し、課題解決に向けた探究に取り組もうとしている。</li> <li>・自分の調べたことやまとめたことを相手や目的に応じて、適切に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取材活動や調査など情報収集について目的に応じて手段を適切に選択することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、将来の夢や志をもち、努力を継続することができる。</li> <li>・進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとしている。</li> </ul>

## 実践例（総合的な学習の時間） 単元名「自分たちの未来」

### 1（総合的な学習の時間）この単元のねらい

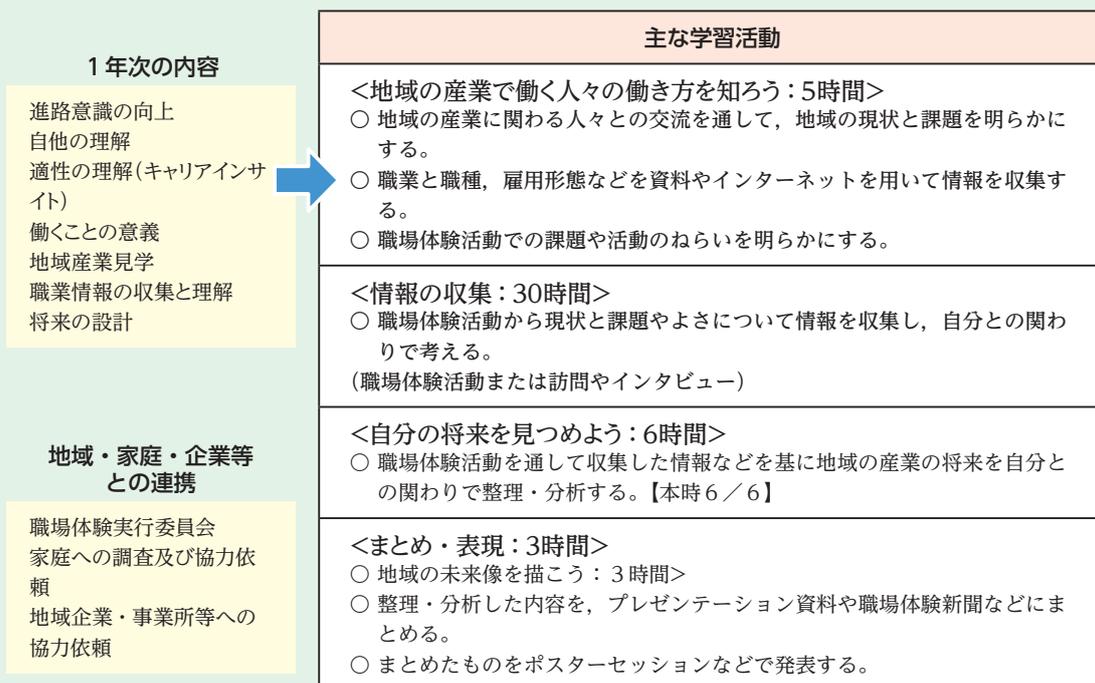
職場体験活動を生かした探究的な学習を通して、自己の生き方や将来について考えとともに、地域が抱える課題を知り、その解決策や未来像を考えていくための資質・能力を次のとおり育成する。

- 職場体験活動を通して、地域の産業が抱える課題を理解するとともに、それらの調査活動を目的に応じて、適切に実施することができる。
- 地域で働くことについて、自分の考えと実際に働く人々との考えの隔たりから、課題を設定し、様々な情報を収集したことを基に、自分との関わりで考えたことを分かりやすくまとめたり伝えたりすることができる。
- 地域の産業と自分との関わりに関心を持ち、今後の学習や生活に生かすことができる。

### 2 本実践とキャリア教育

職場体験活動を適切に探究的な学習活動に位置付けた本実践は、中学校におけるキャリア教育の重要な部分を担うものである。生徒の変容を意識した指導計画や評価計画が大切である。その際、地域産業と結び付きのある職場体験活動とすることで、生徒一人一人が自分や地域の将来について考えることができる。そこで本時では、体験から見いだした課題を整理・分析することで地域のために自分にできることを考え、積極的に社会参画していこうという態度を育み、「キャリアプランニング能力」の育成を目指す。また職場体験活動が困難な場合においては、訪問やインタビューなどに置き換えたり、ICTを活用したりするなど工夫していくことで、内容を更に充実させていくことが期待できる。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



## 4 本実践（本時）の展開

### ● 本時までの流れ

	めあて	学習活動と内容
1時間目	職場体験活動を振り返り、地域の現状について見えてきた課題を整理しよう	職場体験活動を振り返って、体験したことやインタビューした内容を整理・分析して、地域の課題を明らかにする
2・3時間目	地域の課題についてさらに詳しく調査しよう	見えてきた地域の課題に対して、グループ分けを行い、グループごとに色々な角度からさらに詳しく調査する
4・5時間目	調査した内容を踏まえて、まちづくりの提言を考えよう	調査した内容を出し合い、どんな手立てを加えていけば自分たちの住む町がよりよくなるのかを考える

### ● 本時のねらい(6/6)

グループ間交流を行うことを通じて、まちづくりの提言をさらに具現化することで、自分の生き方や将来、さらにはふるさとの未来について考えることができる。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1 本時の課題を確認する。 <b>職場体験活動を振り返り、地域の現状について見えてきた課題を整理しよう。</b>	○ これまでの内容を振り返り、本時の活動について確認し、今後の見通しをもてるようにする。
展開	2 調査したグループで発表準備をする。 ・ 調査した内容やまちづくりについて考えた提言について確認する。 3 グループ間交流を行う。 ・ 4～5人のグループをつくる。 ・ 順番に発表する。(5分程度) ・ 発表した内容について、周りの生徒は感想やアドバイスをを行う。	○ これまでの内容を報告できるよう、グループで要点をまとめ、発表できるようにする。 ☆ グループ内で自分たちがまとめた、まちづくりの提言を振り返るように促す。 ○ グループ交流の司会者や発表順番などは、役割分担するように指導する。アドバイスは付箋に書かせ、後で整理しやすいように工夫をする。 ☆ グループ内で自分の考えを伝え、周りからアドバイスをもらうことで更に深めるように促す。
終末	4 調査したグループに戻り意見交流する。 ・ もらったアドバイスを整理して、まちづくりの提言を修正する。 5 本時のまとめと次時の確認をする。	☆ アドバイスを参考にして、まちづくりの提言が、自分たちの思いや考えが含まれた内容になるように指導する。 ◆◇ グループ間交流を通じて、自分やふるさとの未来を考えることができ、その見通しをもつことができたか。

## 5 本実践のポイント

職場体験活動を意義あるものにするためには、体験や調査したことを整理・分析してまとめ、それを伝えることが大切である。周りからのアドバイスを参考にして、情報を多面的に見ることや考えを具現化することによって、ふるさとのよさや課題を発見し、ふるさとの未来を考え、よりよい未来を切り拓いていこうとする態度を育てる。

# 中学校 特別の教科 道徳

### 1 特別の教科 道徳を通したキャリア教育の実践についての基本的な考え方

生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることが学習指導要領総則には明記されている。同じく学習指導要領総則では、道徳教育に関する配慮事項として、勤労観や職業観を育むことができる職場体験活動や他の人々や社会のために役立ち自分自身を高めることができるボランティア活動など、豊かな体験を充実することが求められている。

#### 中学校学習指導要領(平成29年告示)《抜粋》

##### 第1章 総則

##### 第6 道徳教育に関する配慮事項《抜粋》

3 学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。また、道徳教育の指導内容が、生徒の日常生活に生かされるようにすること。その際、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。

キャリア教育の実践は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、キャリア教育の実践が道徳教育に果たす役割は大きいと考えられる。また、キャリア教育の要である特別活動の目標や育成を目指す資質・能力には、道徳教育がねらいとする内容とも共通している面が多く含まれている。

具体的には義務を果たそうとする態度、よりよい人間関係を深めようとする態度、社会に貢献しようとする態度、より高い目標を設定し諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性を大切に集団活動を行おうとする態度などは、集団活動を通して身に付けたい道徳性である。学級活動の内容(3)の「一人一人のキャリア形成と自己実現」において、社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成等を通して、自らの生活を振り返り、自己の目標を定め、粘り強く取り組み、よりよい生活態度を身に付けようとすることは、道徳性の育成に密接な関わりがある。学校行事においても、特に、職場体験活動やボランティア精神を養う活動を通して、よりよい人間関係の形成、自立的態度、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労、社会奉仕などにかかわる道徳性の育成を図ることができる。

### 2 「特別の教科 道徳科」(以下、道徳科)の内容とキャリア教育の関連

#### —基礎的・汎用的能力を視点に—

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要となる道徳科の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことであり、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動など各活動の道徳教育におい

て取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うことや、生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする役割が求められている。

道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、いずれも、人が社会的・職業的に自立し生きていく上で必要とされるものである。道徳科において指導すべき内容は、学習指導要領において、22の内容項目を次の四つの視点に分けて示している。また、以下の表はキャリア教育における「基礎的・汎用的能力」を構成する四つの能力とその育成に特に関係が深いと考えられる内容項目について示した1つの例であり、一人一人の生徒や学校の実態などを考慮し、目指す基礎的・汎用的能力を意識し重点的指導を工夫することで更なる効果が期待される。

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
思いやり, 感謝 B (6)	自主, 自律, 自由と責任 A (1)	真理の探究, 創造 A (5)	自主, 自律, 自由と責任 A (1)
礼儀 B (7)	節度, 節制 A (2)	相互理解, 寛容 B (9)	節度, 節制 A (2)
友情, 信頼 B (8)	向上心, 個性の伸長 A (3)	公正, 公平, 社会正義 C (11)	向上心, 個性の伸長 A (3)
相互理解, 寛容 B (9)	希望と勇気, 克己と強い意志 A (4)	家族愛, 家庭生活の充実 C (14)	希望と勇気, 克己と強い意志 A (4)
遵法精神, 公德心 C (10)	真理の探究, 創造 A (5)	よりよい学校生活, 集団生活の充実 C (15)	真理の探究, 創造 A (5)
公正, 公平, 社会正義 C (11)	感動, 畏敬の念 D (21)	郷土の伝統と文化の尊重 C (16)	勤労 C (13)
社会参画, 公共の精神 C (12)	よりよく生きる喜び D (22)	我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度 C (17)	
家族愛, 家庭生活の充実 C (14)		国際理解, 国際貢献 C (18)	
よりよい学校生活, 集団生活の充実 C (15)		生命の尊さ D (19)	
		自然愛護 D (20)	

## 実践例（特別の教科 道徳） 主題名「働くことの尊さ」【第2学年】

### 1 主題名：なぜ働くのか C「勤労」

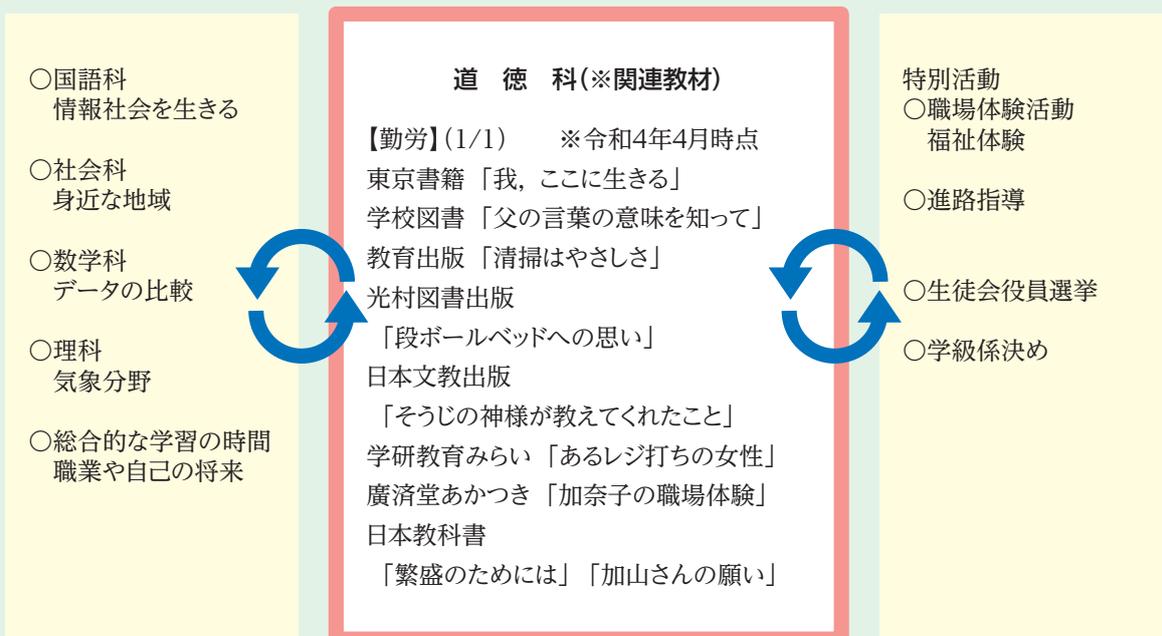
ねらい：勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献しようとする意欲を育てる。

### 2 本実践とキャリア教育

小学校の段階では、特に高学年で働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすることについて学んでいる。中学校の段階では、入学して間もない時期には、将来の生き方について漠然としか想像できていない生徒や将来の夢や希望を描けない生徒も少なくないが、学年が上がるにつれて社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えていく。また、他者と関わり、様々な葛藤や経験の中で、自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を模索し夢や理想をもつようになるとともに進路の選択を迫られる時期でもある。内容項目の「勤労」は、基礎的・汎用的能力の「キャリアプランニング能力」との関わりも深く、本実践を通じて、働くことの意義を理解し、自らが果たすべき役割を踏まえ、自らが主体的に判断してキャリアの形成につなげることができると考えられる。

道徳科は道徳的な実践を行うための基盤となる道徳性を養うことを重視し、キャリア教育では、道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場である。それぞれの特質を踏まえながら効果的な実践につなげられるようにしたい。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



※詳しくは、各校の道徳教育の全体計画や全体計画の別業を参照し、各教科等での指導と関連を図る

#### 4 本実践（本時）の学習指導過程

本時のねらい：勤労の意義や尊さを理解し、勤労を通して生きがいのある人生を実現しようとする実践意欲を育てる。

(1/1時間)

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点
導入	1 「勤労」とは何かを自分のイメージで3つの言葉を挙げ、優先順位をつけておく。	☆「勤労」の意義や役割について今までの経験から言語化して優先順位を付けて示す。 ○自らが主体的に考え、思考を整理分析し、表現することができるようにする。
展開	2 教材『我、ここに生きる』を読む（範読）。 3 「勤労」について対話する。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; margin: 10px 0;">勤労とはどのようなものか</div> (1) 個人で感じたことをグループで共有 (2) グループ内で感じた共通点や違いを確認 (3) 学級全体で共有	○医師の心情の変化に注目し教材を読む。 ○医師の葛藤や決心に共感し、勤労を通して社会に貢献することの大切さを理解することができるようにする。 ○医師が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、自らの思考や感情を律していることに気付けるようにする。 ☆多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に判断してキャリア形成していることに気付く。 ○ICT 思考ツール等を活用し、他者の意見や考えも効果的・効率的に把握できるようにする。
終末	4 あらためて自分が考える「勤労」について考え、短い文章で記入する。	○社会との関わりを意識しながら、自分が考える「勤労」について意義や役割の理解について考えを深めていけるようにする。 ○身近な学校生活とも関連させて、今できることややるべき事などに結び付ける。 ○将来の自分の生き方について具体的に考えられるようにする。

#### 5 他の教育活動との関連のポイント

##### 勤労の尊さや意義についての考えを深める

職場体験活動やボランティア活動等の具体的な活動と関連させ、社会貢献に伴う喜びを実感しつつ、自らの思考や感情を律し、自らが主体的に判断してキャリア形成しようとする意欲を育て、社会人・職業人として生涯にわたって必要となる「キャリアプランニング能力」の素地を育てる。

## 中学校 特別活動

### 1 特別活動を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方

#### (1) 特別活動で育成を目指す資質・能力

特別活動は、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。その活動の範囲は学年、学校段階が上がるにつれて広がりをもっていく。そこで育まれた資質・能力は、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていくことになる。このような特別活動の特質を踏まえ、平成29年3月に改訂された中学校学習指導要領では、特別活動において育成を目指す資質・能力については、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点で整理された。

人間関係形成
<p>集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点である。集団の中において、課題の発見から実践、振り返りなど特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれる。</p>
社会参画
<p>集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点である。集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれる。</p>
自己実現
<p>集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとするという視点である。自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察する中で育まれる。</p>

これらの三つの視点は、特別活動において育成する資質・能力における重要な要素であり、キャリア教育によって育成する基礎的・汎用的能力と密接に関連している。したがって、これら三つの視点と基礎的・汎用的能力を踏まえて特別活動の目標及び内容を整理し、学級活動、生徒会活動、学校行事を通して育成する資質・能力を明確化して指導にあたることが大切である。

#### (2) 生徒の活動を記録し蓄積する教材等(以下、「キャリア・パスポート」)の活用

キャリア教育は特別活動を要しつつ学校教育全体で行うものである。日常の教科等の学習の指導においても、学ぶことと自己のキャリア形成の方向性とを関連付けながら、見通しをもって社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力を育成するなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進する必要がある。特別活動には、学校教育全体で行うキャリア教育の要の時間としての役割を明確にするため、また、小・中・高等学校を通してキャリア教育に系統的、発展的に取り組んでいくことを明確にするため、小学校段階からの学級活動及びホームルーム活動に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」が新たに設けられた。学級活動(3)の指導において、学校での教育活動全体及び家庭、地域での生活や様々な活動を含め、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習への意欲に

つなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことが必要であると示された。こうした活動を行うに当たって、振り返って気付いたことや考えたことなどを、生徒自らが記述し、その記録を蓄積していく教材が「キャリア・パスポート」である。

## 2 特別活動の指導内容とキャリア教育の考え方 —基礎的・汎用的能力を視点に—

複雑で変化の激しい社会において、将来、社会的・職業的に自立して生きるために必要な資質・能力を育成することが、一層求められている。これからの時代には、多様な他者と協働して創造的に課題を解決する力や、希望や目標をもって生きる態度を身に付けることが重要である。学校は人と人が関わり合う一つの社会であり、特別活動を通して学校における生活の向上に努め、多様な他者と関わり合ってよりよく生きようとすることを学ぶのである。このような資質・能力は、学校の教育活動全体を通して育成されるものであるが、特に特別活動は、学校における様々な集団活動や体験的な活動を通して、生徒の人間形成を図ることを特質としており、極めて大きな役割を担うものである。このことは、社会的・職業的自立を目指すキャリア教育と深くかつ直接的に結び付くものである。次に一例として、特別活動の3つの内容と基礎的・汎用的能力との関連を示す。

基礎的・汎用的能力の育成に特に関する指導内容の例

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図ることができる。</li> <li>他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。</li> <li>社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。</li> <li>適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。</li> <li>現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に考えることができる。</li> <li>学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決しようとしている。</li> <li>他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて悩みや葛藤を乗り越えながら取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くことができる。</li> <li>身に付けたことを生かし、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとしている。</li> <li>将来にわたって自他の健康で安全な生活づくりをしようとしている。</li> </ul>
生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に社会参画するために必要なことを理解し、仕方を身に付けている。</li> <li>学校生活における規律とよき文化・校風の発展に関わろうとしている。</li> <li>生徒会の組織を活用した学校行事運営上の役割に取組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や社会生活をよりよくする方法を考えている。</li> <li>学校生活の充実と向上を図ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の諸活動について連絡調整することができる。</li> <li>合理的な意思決定や議論を通じた意見の集約ができる。</li> <li>身近な課題等の解決を図ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢集団等による交流など多様な他者への配慮ができる。</li> <li>地域や社会の形成者として話し合いができる。</li> </ul>
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の個性を認め、互いに高め合うことができる。</li> <li>勤労生産や奉仕に関わる活動に積極的に取り組み社会に貢献しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>儀礼やマナー等の規律や気品のある行動の仕方などを身に付けている。</li> <li>新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に向かい協力してやり遂げる方法を理解している。</li> <li>非常時から身を守ることの意義を理解し、必要な行動の仕方などを身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな生活への希望や意欲につなげようとしている。</li> <li>ボランティア精神を養い、ボランティア活動に積極的に参加しようとしている。</li> </ul>

## 実践例（学級活動）「何を学び、どう生かすのか～学びと将来に轍をつなぐ～」【第3学年】

### 1（学級活動）この題材のねらい

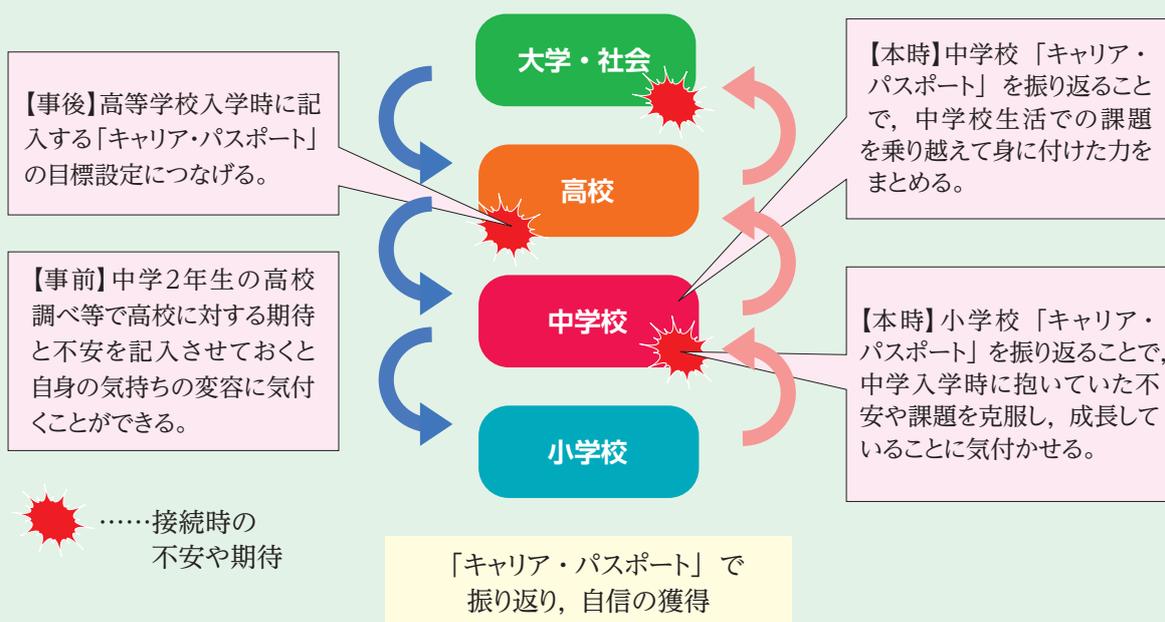
- 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けている。
- 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くことができるようにする。
- 将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。

### 2 本実践とキャリア教育

学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の事例である。小学校から中学校へ進学する際、欠席が続いてしまう生徒が存在する。小6から中1に至る過程に大きな「壁」や「ハードル」が存在し、それが問題を引き起こしているかのようなイメージを抱きがちだが、多くの問題が顕在化するの中学校段階からだとしても、実は小学校段階から問題が始まっている場合が少なくない。中学校から高校へ進学する際も同様のケースが考えられるため、小中高の連続性に着目することで様々な問題が解消され则认为。

本時は、「キャリア・パスポート」を活用し、小学校、中学校での課題に着目させ、その課題から何を学び、どう生かしていくのか、「自己理解・自己管理能力」を高めることをねらいとした授業である。さらに、級友と課題や解決方法等を語り合う活動を通し、仲間の存在に気づき、新たな高校生活への意欲を高める内容となっている。

### 3 全体構想（本実践までの学習活動と本実践以後の学習活動）



#### 4 本実践（本時）の展開

《本時のねらい》

- ・小学校、中学校の「キャリア・パスポート」を活用し、様々な課題を乗り越え成長してきたことに気づき、自らを信じ様々なことに挑戦しようとしている。

	学習活動と内容	指導上の配慮事項と見取り（評価） ○配慮事項 ☆キャリア教育の視点 ◆教科等の評価 ◇キャリア教育の視点からの見取り（評価）
導入	1 事前のアンケート結果を共有する。 2 本時のねらいを確認する。 何を学び、どう生かすのか ~今の学びと将来に軸をつなぐ~	○事前アンケートで高校生活への期待と不安を共有する。不安に思っているのは自分だけではないことに安心できるようにする。 ○「キャリア・パスポート」を配布する。
展開	3 中学校生活を振り返り、様々な課題をどのように乗り越えてきたのか「キャリア・パスポート」から見取る。 4 見取った課題と乗り越え方を語り合う。 5 小学校「キャリア・パスポート」から中学校入学前を振り返る。 6 発問・発表 「あなたは今までの学びをどのように生かし、高校生活を送っていきますか？」	○中学校生活で様々な課題を乗り越え、成長してきたことに着目できるようにする。 ☆他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。 ○中学校入学時の課題を乗り越え、成長してきたことに気付かせる。 ◆◇将来の生き方を見通したり、現在の生活や学習を振り返ったりしようとしている。
終末	7 まとめ 本時を振り返り、高校生活に向けて意欲を高めることができるようにする。	○自らを信じ、前を向いて突き進んでほしいなどと担任としての思いを伝える。

#### 5 本実践のポイント

- 同じ課題でも、乗り越え方には様々な方法があることに気付かせることができるようにする。
- 語り合う場面では、仲間の存在に気付くことができるよう、「自分一人だけの力で乗り越えてきたのか」等の補助発問を入れるようにする。
- 中学校入学前を振り返り、接続時に生じる不安を乗り越えてきた自分に気づき、高校生活に対する自信の獲得を図る。
- 最後の発問では、今までの学びを更に高めたい、挑戦したい等の前向きな言葉が出るようにする。